

全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会

会報



第53号
発行者
全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会
会長 猪木直樹
事務局
岡山県倉敷市玉島阿賀崎1-2-31
玉島テレビ放送(株)内
印刷
株式会社玉島活版所

平成二十九年の年頭にあたり、謹んでお慶び申し上げます。全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会員の皆様ならびに関係各位におかれましては平素より会の運営と活動に対するご理解・ご支援をいただいておりますことに心から感謝とお礼申し上げます。昨年は熊本地震をはじめとして多くの自然災害が起こり、各地に大きな被害をもたらしました。被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心から祈念いたします。同時に全国の皆様には支援いただいた熊本地震支援金については子どもたちのために有効に使われていることを報告させていただきま

す。ご協力にありがとうございます。西年の本年、われわれにとってさまざまな有益な情報・もの・ことを取り込み、本会の益々の充実発展に向けてはばたいていく年になることを願っています。我が国においては、これまでに経験のない人口減少に直面しています。労働人口が減少する一方、経済のグローバル化などへの対応が求められ、また昨年倉敷の地において開催されたG7教育大臣会議においても、内容実現に向けての教育に対する予算が厳しいといった日本の未来に不安を隠しきれない状況です。その様な中、文部科学省は家庭教育支援のための方策として地域の人材を活用した「家庭教育支援チーム」による支援の推進を挙げています。チームの中に様々な分野の人間が含まれるのが望ましいとされる中、まさに我々のPTAそのものがチームだと確信しています。PTA事業を企画立案し、実行するにあたり、永年にわたり築き上げてきたチームとしての人間関係を駆使し、未来を見据えています。こうした活動の歴史と伝統に鑑み、我々の存在意義を確かなものにして、子どもたちの幸せのために、ともに力



「未来を担う子どもたちのために」
全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会
会長 猪木直樹



平成28年度 優良PTA文部科学大臣表彰

平成28年8月6日に第54回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「熊本大会」において表彰式が行われた。

- 岩手県 一関市立真滝幼稚園PTA
- 東京都 千代田区立いずみこども園PTA
- 山梨県 忍野村立忍野幼稚園PTA
- 静岡県 焼津市立さつき幼稚園父母と教師の会
- 静岡県 伊豆の国市立富士美幼稚園PTA
- 大阪府 大阪市立西野田幼稚園PTA
- 兵庫県 宝塚市立安倉幼稚園PTA
- 岡山県 津山市立西幼稚園PTA
- 岡山県 瀬戸内市立今城幼稚園PTA

- 徳島県 鳴門市堀江北幼稚園PTA
- 香川県 三豊市立豊中幼稚園PTA
- 愛媛県 愛南町立あいなん幼稚園PTA
- 長崎県 諫早市立諫早幼稚園PTA



を合わせて前進していきましよう。それが親としての責務であると信じています。今年度も全幼Pとして各々の連携を強化し各地の想いをしっかり受け止め、そして取り込み、希望のある未来を構築していきましょう。本年八月には、滋賀県において全国国公立幼稚園・こども園PTA

A全国大会「滋賀大会」が開催されます。母なる湖びわこを背景に意見を交わし、見識を深め、自身と子どもの成長に繋げていきます。ぜひご参加よろしくお願ひ申し上げます。すべては未来を担う子どもたちのために！

特別寄稿

一緒に育つ、一緒に育てる



全国国公立幼稚園・
こども園長会 会長
関 美津子

私の勤務園で五歳児は、アイガモやウサギ、カメの飼育当番があります。長靴に履き替えて、デッキブラシをもって飼育小屋に入り、手際よく汚れを落としている子、アイガモの散歩をさせる子、餌の準備をする子…。役割分担をしながら、それぞれが動いています。終了後、全員一緒に終了の報告を担任にします。一人一人が自分の役割にに応じている姿は、動きとしては個々の動きですが、気持ちには友達と「一緒に当番」と思っていると感じます。

この「一緒に」という言葉が最近気になっています。注目している様々な場面で、「一緒に」の言葉が使われていることに気付きました。この「一緒に」は魔法の言葉は、コピーライターの佐々木圭一氏の話の中ででてきた言葉です。二〇一三年サッカーワールドカップ出場決定の試合後、渋谷のスクランブル交差点に、勝利に喜ぶ大勢の人が集まりました。そこで有名になったのがDJポリスです。このお巡りさんの言葉に大きな意味があるそうです。その言葉とは、「お巡りさんもワールドカップを喜んでいきます。皆さんと気持ちには「一緒に」です」「お巡りさんの言うことを聞いてください」と、若者の熱狂をうまく治め、混乱を防ぎました。そして、『ヒトは、太古から協力することで生き延びてきた生物であり、一緒に何かをしようと言われると思わずそれのりたくなる性質を利用した極意である』とのことでした。「一緒に」という言葉は、人が前向きに動くこととするキーワードになっていると思います。

この「一緒に」という言葉は、子育てにも当てはまります。日本の子育てでも、そんなに遠くない昔、祖父母や家族、地域の人に支えられながら一緒に育って来ました。少子化、核家族化、情報化、グローバル化等、急激な社会変化が起きています。子育てが孤立化し、虐待等の痛ましい事件が後を絶ちません。悩みや不安を一人で抱え込むのではなく、一緒に考えたり乗り越えたりする機会や場をつくっていくことは喫緊の課題です。

子育て環境や課題を踏まえ、未来を担う子どもたちの最善の利益のために、子ども・子育て支援新制度が施行され二年になります。社会全体で子どもを育てるという理念のもと様々な施策が進められています。子どもの視点を大切にした取組は、今後の課題であると考えます。

これらのことを考えますと、PTAの皆様の活動は、子どもの健やかな成長のため、保護者の親育ちのために、大変意義の深いものです。会員数の確保や運営上の課題は少なくないと思いますが、皆様のしつかりと子ども向き合った様々な活動は、二十年後、三十年後に、子どもたちが大人になり、自分自身が子育てをする時に生きてくると思います。「育てられたように育つ」ことが連鎖していくのです。幼児期はあっという間に過ぎていきます。将来を見ながら目の前にいる子どもたちのために、一緒に子育てをする仲間としての連帯感を高めていっていただきたいと考えます。

さて、国公幼の取組として大きな事業の一つに特別事業があります。「親子で一緒に楽しむ」「親子の触れ合い」を大切にすることを目的に子育ての支援事業として、二年間の調査研究を行っています。幼児期は、生活や遊びの中で直接様々なものに、手先や指先を使って、触れたり確かめたりしながらその性質や仕組みを知り、体験を豊かにしていきます。しかし、生活が便利になった一方で、結んだり、ひねったり、絞ったりする経験の機会が乏しくなっています。このことが、遊びや生活の豊かさに影響を及ぼしているのではないかと考え、昨年度は、「遊びを通して子どもの生活体験を豊かにする」ことをテーマに、実態調査及び結果に基づく提言等を行いました。

今年度は、その提言を実践化するために、親子で一緒に、手先や指先を使った遊びをたくさん楽しむことを願って、「こころとからだ！親子で楽しもう！遊びと生活 チャレンジくん」とチャレンジ「ジ」の遊びのリーフレットを作成しました。また、全国七ブロックで、園・PTA・地域の皆様と一緒に、各地域の特色を生かした体験・参加型のブロック・キャンペーン研修会を開催しました。参加者の感想の一部をご紹介します。

- 指先を使うことは、乳幼児期からの体験が必要だと感じる。
- 親子で体や手先を使って遊ぶことは、子どものいろいろなものへの興味や関心、意欲を高めると感じた。
- 親子の触れ合いはもとより、親同士で協力したり子ども同士で触れ合ったりして、楽しい時間を共有することができた。

研修会で体感した思いを、日々の親子の触れ合いにつなげていきたいと思えます。

最後になりますが、三月に告示予定の新幼稚園教育要領等では、「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる」とあり、家庭との関係において緊密度が他校種と比べて高い幼稚園のカリキュラム・マネジメントの重要性が示されています。

国公幼が今まで築きあげてきた質の高い教育を継承し、新しい時代のふさわしい教育を進めていくために、PTAの皆様と一緒に、子どもたち健全な育環境を整備してまいります。よろしくお願いたします。

第五十四回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会 総会ならびに研究協議会

— 熊本大会 —

大会報告

四月十四日と十六日に二度の熊本地震の被害を受け、一時は開催を危ぶんだ熊本大会でした。しかし、熊本関係者の努力と全国の皆様の温かい励ましのお陰で無事に開催できましたことに感謝申し上げます。当日は、文部科学省をはじめ多数の来賓をお迎えし、「育てよう！たくましいこどもと親の力!!」九州のおへそ熊本でみんななかたらんね」というテーマのもと、大会宣言文が伝えられ、総会が始まりました。提案発表では、岐阜県・福岡県・大分県から園と家庭と地域が連携してPTA活動をしている実践が発表されました。熊本タイムでは、保護者の皆様のコーラスと熊本地震直後の様子を見せていただき、熊本の園・子どもたち・保護者の皆様のたくましい姿に感動いたしました。記念講演では、道志真弓さんが「大切なあなたと生きていくって幸せ」という演題で、命の大切さや感謝の心、生きることのすばらしさなどご講演されました。当たり前のことが本当は有難いものだという

大会要項

一 大会主題

育てよう！

たくましいこどもと親の力!!

九州のおへそ 熊本で

みんな なかたらんね

二 期日・会場

平成二十八年 八月五日(金)

熊本市国際交流会館

八月六日(土)

ホテルニューオータニ熊本

三 日程

八月五日(金)

・ 会計監査

・ 役員会

・ 理事会

・ 情報交流会

八月六日(土)

・ 開会式

・ 表彰式

・ 総会

・ 提案発表

・ 熊本タイム

・ コーラス・記念講演

・ 閉会式



第五十四回 熊本大会 表彰状・感謝状受賞者(敬称略)

全国国公立幼稚園・こども園PTA協議会会長表彰

前全幼P副会長 静岡県 太田 禎彦

前全幼P副会長 大阪府 矢原 健聖

前全幼P副会長 東京都 関 美津子

前全幼P副会長 秋田県 船木 咲子

全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会会長感謝状

愛知県国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会



平成二十八年度活動方針 ならびに事業計画

一 活動方針

「教育は人格の完成を目指し、心身ともに健康な国民の育成を期するとともに国家、社会の存立、繁栄の基盤を形成するものです。人間の強靱化なくして我が国の未来はありません」と国は提言しています。その実現のためのス

- タートラインが私たちの組織であることは確かです。全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、子どもにとつての最善の利益が確保される社会の実現に向けて行動することを念頭に置き、幼児教育の振興発展にさまざまな形で寄与すべく活動を続けていきます。その礎は、昭和三十八年結成以来、半世紀にわたり積み上げてきた歴史と実績であり、その熱き思いまでもを継承していくことが、我々の使命であると信じています。その上で、今の我々の世代が、先人たちの教えを受け継ぎ、世代を乗り越えて、一層優れた親としての行動力を発揮していくことこそ必要であると確信しています。
- 全国国公立幼稚園・こども園PTA連絡協議会は、どんな時代背景であろうとも、すべての子どもたちが笑顔いっぱい成長していくために、また、すべての家庭が安心して子育てでき、育てる喜びを感じられる環境構築のために、全国国公立幼稚園・こども園長会との絆を密にし、日本PTA全国協議会及び全国様々のPTA組織と連絡提携し、以下の項目の実現を目指した行動の推進を活動方針とします。

二 事業計画

四月～五月

- ・ 加入園会費納入と熊本大会案内状発送
- ・ 未加入園へ加入依頼書と熊本大会案内状発送

六月～七月

- ・ 第六十七回全国国公立幼稚園・こども園長会総会「岐阜大会」にて本会発展の協力依頼
- ・ 平成二十八年度要望書作成
- ・ 表敬訪問(文部科学省)(東京)

八月～十二月

- ・ 会計監査、役員会、第一回理事

記

(1)義務教育化を前提とした幼児教育の充実

育の充実

大会宣言

昭和38年に設立された全国国公立幼稚園PTA連絡協議会は、幼児教育の振興及び発展を強く願い、半世紀以上にわたり連綿と活動を続けております。会の名称を昨年四月より変更しましたが、その思いや姿勢は不変のものとして今後も継続されていくものでなければなりません。

子ども・子育て支援新制度の開始、認定こども園化に向けた動きや保育料無償化への動きなど幼児教育を取り巻く環境は大きなうねりの中にあります。その中において子どもは今までと変わらぬ質の高い幼児教育をうけられるように、私たち大人が見守りながらも率先して行動していくことが必要です。

熊本大会においては「育てよう！たくましく子どもと親の力！！」という主題を掲げ、熊本の地においてみんなで子どもたちのことについて話し、和みの時間を持ち大きな輪を創る機会にしたいと思っております。

社会の大きな変革期を子どもたちが生き抜くためには、まずは親がたくましくあらねばなりません。

本大会が、私たち一人一人の持っている親力（おやりよく）を結集させ、その力を存分に発揮できるきっかけとなることを約束し、次のことを宣言します。



- 一、 幼児教育環境を守るため、家庭・園・地域が三位一体となりゆく社会を目指します。
- 一、 幼児教育のさらなる質の向上を図るため、より身近なPTA活動の充実を図ります。
- 一、 PTA活動を通して、自らの意欲を高め地域貢献・社会貢献に努めます。
- 一、 大人が子どもの鑑となるように、まずは私たちが自己研鑽に努めます。
- 一、 子どもの安全確保、園の安全管理の強化に努めます。

平成28年8月6日

第54回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会熊本大会

会（熊本）

第五十四回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会「熊本大会」総会ならびに研究大会

熊本大会決定事項の処理

第六十三回全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会「沖繩大会」会長出席

計画書案と予算案作成

- ・ 会報五十三号原稿依頼
- ・ 滋賀大会開催について事前打合せ
- ・ 平成二十九年活動方針・事業計画書案と予算案作成
- ・ 第二回理事会（東京）
- ・ 理事会での検討事項の処理
- ・ 一月～三月
- ・ 会報五十三号発行
- ・ 未加入県への加入呼びかけ
- ・ 平成二十八年度会務報告と決算の中間報告書作成
- ・ 第三回理事会（東京）
- ・ 理事会での検討事項の処理

研究協議

提案発表1

「歌のプレゼントでつながる 広がる園児と保護者の笑顔」

岐阜県多治見市立明和幼稚園

平成二十八年年度父母の会会長

竹下 なお

一 はじめに

多治見市は、岐阜県南部に位置し、周囲を山地や丘陵地に囲まれた盆地地形であり中央部には土岐川（庄内川）が流れています。本園は、新興住宅、市営住宅を含む団地の中にあります。神社や寺院が一つもなく、地域を結び付けているのは、幼稚園、保育園、公民館、児童センター等です。地域の方はこれらの施設や学校、幼稚園を中心に地域を築いていこうという気風が高いです。

二 園の概要

昭和五十二年開園で、三、四、五歳児が二クラスずつ百三十七人で、市立幼稚園六園中最も園児数が多い幼稚園です。すぐ近くにはわんぱく山があり自然に恵まれた場所にあります。核家族家庭が八十八%で、子どもの成長につれて働きに出る母親も増え預かり保育の利用者も増えています。

三 PTAの組織と活動内容

運営委員会・学級委員会・資源委員会・安全委員会・夏祭り委員会・パサー委員会の六委員会と同時に、サークル活動で、わんぱくパトロール、お山ボランティア、絵本ボランティア、コーラス部があります。

特に、コーラス部は、三十五年間続いている伝統ある活動で、在園児の保護者の有志で構成されています。毎月一回の誕生日会に、季節にちなんだ歌、誕生日にちなんだ歌、テレビ番組などで子どもたちに馴染みの深い歌などから毎月三～四曲を決めて披露しています。歌の中にはハモリや簡単な振りが入るだけでなく、手作りの衣装を着て歌に合わせて踊るなど、毎回工夫を凝らした演出があります。衣装や小道具の製作は絵画や手作りの得意な部員を中心に、振り付けはみんなで知恵を出し合いながら作り上げていきます。

四 まとめ

誕生日という親子がともに成長を喜び合う節目の時に、多くの人から「おめでとう」の気持ちを伝えてもらうことは子どもたちの自己肯定感にもつながります。また、沢山の歌を聞くことは成長著しい子どもたちに感性を蓄えさせ、心豊かな人間形成に関わっていく体験でもあります。今後は誕

生日会に向けてコーラス部と園と地域が協議し、全体がまとまったお祝いの会になるような取組をしていきたいと考えています。

五 おわりに

私たち保護者は園と地域と互いに協力しながら父母の会の活動及びコーラス部をはじめとした各種ボランティア活動を通じて、園児たちがたくさんのおいしい笑顔に見守られ、のびのびと健やかに成長し、笑顔が広がっていくことを心から願っています。そして開園以来四十年間受け継がれてきたこの精神を私たちはしっかりと受け止め、自身が親として成長するとともに、後世に引き継いでいきたいと思っています。



提案発表表Ⅱ

「親と子が育つPTA活動」

福岡県福岡市立和白幼稚園
福岡県福岡市立和白幼稚園
福岡県公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会会長

山口 隆広

一 はじめに

福岡県における国公立幼稚園・こども園は、全部で五十一園あり、PTA連絡協議会に加入して

いる園はその内の三十七園です。

親と子が育つことを目指して、各園でPTAが協力しながら特色ある活動を展開しています。地域を四ブロックに分け、現在活動している園は三ブロックとなっています。毎年六月初旬に総会を開催し、年間の活動内容などの協議や全体研修会を行なっています。また、それぞれのブロックにて、年に一回、子育てに役立つ内容をテーマにした研修に取り組みんでいます。

福岡市に於いて、市立幼稚園は九園（一園は廃園、一園は休園中）設置され、現在園児が通っている幼稚園は七園（東区二園、中央区一園、西区二園、早良区二園）です。市には全ての市立学校の教育指針を示す「新しいふくおか教育計画」（福岡市教育委員会作成）があります。その中でも幼稚園では「たくましく生きる子どもの育成」を目指して、七園とも生活習慣づくりや絵本の読み聞かせ、豊かな体験活動等に取組、保護者も保育に協力しています。

二 福岡市立和白幼稚園の取組

(一) 園の概要

昭和三十年に開園し、六十二年目を迎えます。園の近くには、野鳥の宝庫である和白干潟があり、自然に恵まれた環境に位置しています。

(2) 取組の様子

① 絵本の読み聞かせ
毎日降園前の絵本の読み聞かせを行っています。週に一日はPTAの保護者ボランティアが、年二回の「親子ふれあい活動」では父親が協力をしています。また、寄付された本をPTAが管理し、絵本ボランティアが貸し出し活動を行い、親子共々、絵本に親しむ活動も行っています。

② 和白干潟あそび

毎年六月には年長児が、七月には年中児を交えた全園児で和白干潟に出かけ、かにやよどかりなどの海の生き物に触れる体験活動を行なっています。PTAでは、子どもの安全確保と活動補助のため、引率して活動に協力をしています。③ 塩浜芋栽培とカレーパーティー
地域の畑で、サツマイモの栽培を行い、PTA協力のもと、収穫した芋でカレーを作り、収穫の喜びを分かち合っています。

三 成果と課題

・ 子どもの様子を知ることができ、親子共通の話題がもてるようになったことで、「親子のつながり」がより深まった。
・ 親同士のつながりも深まり、日頃から相談できる関係作りができた。
・ 研修会を通して、子育てに対する不安や心配が軽減され、自信

につながった。

・ 働く女性の増加などの社会情勢やそれに伴うライフスタイルの変化にかかわらず、市立幼稚園のよさをアピールする行政との連携が必要である。

四 おわりに

親が我が子の手をつないで幼稚園に通うことや毎日親が愛情こめて弁当を作ること、運動会等の行事で保護者も一スタッフとして活動に参加すること等により、親も喜びを感じています。又、この喜びの積み重ねで親も子どもに育っているという自負を感じます。これこそが公立幼稚園ならではのよさであり、これからも皆で大事にしていくと願っています。



提案発表表Ⅲ

『ゆめっ子の夢をのせて』
『すべては子どもたちの笑顔のために』

大分県豊後高田市立夢いろ幼稚園
平成二十七年年度PTA会長

都甲 卓樹

一 はじめに

豊後高田市は、大分県の北部、国後半島に位置しており、『昭和の町』を中心とした観光施設、また、荘園風景を今なお残す『田染の荘』の景観など、心を和ませます自然豊かな地域です。

二 園の概要

園は、平成十六年に旧豊後高田市内の三園が合併して、開園しました。隣には花いろ温泉があり、周辺には田園が広がり、のどかで豊かな自然に囲まれています。開園当初から、三年保育を行っており、異年齢間の交流や長期の幼児教育ができ、子どもたちの成長に大きな影響を与えていると思います。また、預かり保育（早朝・降園後）も実施しており、家庭のニーズにあった環境です。PTA活動に関しては、平成二十年度よりPTA活動の方針として『すべては子どもたちの笑顔のために』としました。

三 活動内容

①『夏祭り』

手作りの遊びの中から笑顔を手作りの遊びの中から笑顔を、平成二十五年年度から開催し、安全管理・体調管理の観点から、土曜の午前中に実施することにしました。園内を遊びや体験の場として、専門部（新聞ブール・輪投げ・ボーリング）〈障害物で競走〉〈絵

合わせ)「カキ氷と水鉄砲遊び」ごとに手作りの遊びを通して、笑顔をいっぱい咲かせることを目的としました。経費は保護者からのアルミ缶回収の収益から支出していません。役員個人・専門部で知恵を出し合いできる範囲を話し合い、準備に追われることなく開催できました。また、先生方の協力を得ながら、ボランティアの皆さんとともに、各種目を運営できたとともに、子どもたちの事故0を達成。多くの『笑顔の花』が咲きました。

②『給食試食会・清掃活動』

環境を整え笑顔の花を、期末PTAの際、子どもたちとともに給食を試食し、環境部を中心に園舎・園庭の清掃活動を行います。食育の大切さを感じることができ、子どもたちも楽しそうに給食をいただきました。

③『命を守る講演会』

笑顔を守るためには命を繋ぐ、平成二十六年十月二十二日、東日本大震災で被災され、大津波に流されながらも、生還を果たした安部淳様をお招きし、近い将来、起こるであろう東南海地震の備えとして、実体験を聞くことにより、命を繋ぐヒントを得ました。

四 まとめ

PTAとは保護者・教職員が子どもの健全育成のための組織であ

り、非常に重要な存在であるとともに、会員間の交流の場でもあります。しかし近年、共働き世帯も増え、PTA活動を考え直す時期が来ています。その中、役員で知恵を出し合い、無理のない活動の構築を目指しております。保護者・教職員の笑顔は子どもたちの笑顔に繋がります。園・保護者が手を組み、すべては子どもたちの笑顔のために子どもたちの成長を見守っていききたいと思えます。



指導助言 — I —

文部科学省 生涯学習政策局社会教育課
地域・学校支援推進室 室長補佐

下田 力氏

岐阜県多治見市立明和幼稚園の発表は、皆で出来る歌という手段をいかに上手に利用するかということです。活動を通じて「自己肯定感」が高まるという話がありました。文部科学省が毎年行う学力テストの成績が高い地域は、割とPTA活動が盛んです。地域の皆さんが、学校と上手に協力しながら活動している地域の子どもたちは

自己肯定感が高く、勉強などへのやる気も高く、普段の授業もよく聞き、テストの成績が良いというつながりがあるのではないかとも言われています。

福岡県福岡市立和白幼稚園の発表は、和白干潟や塩浜など、地域の特性を使っているという点です。子どもたちに自分が住んでいる地域を、大人が教える機会を作っていることに、先見の明があると思えます。文部科学省が今後全国で取り組んでいただきたいこととあり、このような活動をしていることは、すごいなと思えます。

大分県豊後高田市立夢いる幼稚園の発表は、給食とか防災など、PTAが自ら幼稚園と協力して進めている点で、すごい事だと思えます。また、PTA活動についても知恵を出し合って、「同じことをしなくていいよ」という様なことを伝えていらつしやることは、活動に参加しやすく、非常に良いキャッチフレーズだと思えます。

今後、人口減少などにより活動をどうしていくかという時に「幼稚園と小学校のPTAの連携による活動」もあるのではないかと思っています。また、子どもたちも活動のプロデュース側に参加してもらうと、子どもたちの成長に繋がらないかと思えます。ライフスタイルの変化、加入者の減少、共働きの話など発表されています

たが、「無理をしない」ということを、文部科学省がきちんと伝えることも重要だと思います。PTA活動のような社会教育活動は、無くなつては困るものです。子ども

の成長のためには、学校で習う事だけではなく、世の中の事も伝えていかなければならないと申し上げた通りです。人を育てるためには、先生方だけにお任せするのではなく、世の中の我々大人も加わりましょうということもあるのですが、無理をしないで継続するべき方向性だと思えます。

学習指導要領が平成三十二年、幼稚園教育要領が平成三十年から変わります。アクティブ・ラーニングがその代表例です。学んだ事を社会で有効に使い、自分で課題を見つけ、解決することが出来る人材を育てようというのが、文部科学省の教育のコンセプトです。もちろん、幼稚園も含まれています。皆様の活動というのは、非常に重要な取組なのです。

皆様が互いに参考にして、現在の活動がどうなのかを常に仲間同士で話し合いながら進めていくことが必要です。その際に普段から子どもたちに、将来、どんな大人になつてほしいか、なんとなくでもいいので、意識していただきたいです。本日のような大会や日々の皆さんの活動は、皆さんが

集まって一緒に活動していくことに、非常に重要な意味があると思えます。

指導助言 — II —

全国国公立幼稚園・こども園長会 会長

関 美津子氏

多治見市立明和幼稚園は、幼稚園や保育園、児童センターなど公施設が地域を結びつける役割を果たし、子どもを地域で育てていくという意識につながるなど素晴らしいことだと思います。PTA活動を組織的に運営し、各種委員会活動内容を図式化し、全会員が一役を担い、子どもたちの園生活が豊かになるような取組をされています。登降園の交通安全に気を配るわんぱくパトロール、「わんぱく山」での遊びの時の大人の見守りや言葉掛けは子ども自身が自分の安全や命を守るなど危険を自分で回避していく能力を身に付けていくことにつながります。コーラス部の活動で得られた「子どもたちが喜んでくれる。保護者同志のつながりができる。活動が楽しい。家での親子関係が良好になる。」などの意見はPTA活動の意義そのものです。課題解決やPTA活動改善の第一歩として出されたお便りでは、どのように受け止められているか確認できると更

によいと思えました。

福岡市立和白幼稚園では、県の研修の様子や福岡市の現状を話されました。県レベルで研修会を開くと情報の広がりや深まりになります。福岡市では厳しい状況の中でもたくましく生きる子どもの育成を目指して、七園が一緒になって充実した生活を送れるように取り組まれています。和白幼稚園での干潟で経験、塩田のお芋掘り等、実際にカニやヤドカリに触ってみたり挟まれたりすることを通して、その感覚を自分で感じていくことが大切な体験です。お父さんによる絵本の読み聞かせでは、声のトーンや響きなど子どもたちを感じるものが違うと思います。「親がひと汗かく」など、ご自身が汗をかいて「子どもの育ち」「自身の役立ち感」を感じることは大切なことです。親と子のPTA、親と子が育つPTA活動というものを実践していただきたいと思



ます。

大分県豊後高田市立夢いる幼稚園の実践では、PTAの活動方針を「すべては子どもたちの笑顔のために」と明確にされています。従来の夏祭りを内容や進め方等、安全や子どもへの体調、保護者の状況に応じて変更し行っています。新聞紙プールや輪投げやボーリング、絵合わせ等、PTAの方がされたことは子どもたちが遊びの中で全部できる内容になっています。給食試食会は食材や料理等の食に関わる大切な食育です。その後の清掃活動は、保護者同士が会話を交わし、親睦が深まる機会でした。命を守る講演会では、東日本大震災から五年、今年も、熊本地震、豪雨と続き、自然災害はいつ起こるか分かりません。どこでも起こりうることを想定してPTA活動の中で、子どもの命を守る、自分の命を守るための研修を根付かせていただきたいと思

います。役員の皆様が中心となり、知恵を出し合い一人一人がPTAの一会員として、園の教育や子どもたちに関わるようなPTA活動の推進に期待しております。ご提案いただいた三園の実践から自分の園でできることを実践に生かしていただきたいと思

講演 大切なあなた

「大切なあなた 生きていくって幸せ」

講師 フリーアナウンサー 道志 真弓氏

皆さんこんにちは。道志真弓と申します。

皆さんは命について考えたことがありますか？命はあって当たり前、命があつて良かったと感じることは忙しい生活の中で、なかなかないかもしれません。私も娘が生まれてからは、とても幸せな人生であり、命があつて良かったなとつくづく感じながら生活しています。これは、十一年前の写真です。左の女の子が今日の主人公の道志弓華です。八歳ですが、歩くことも話すこともできず、そして大きくなれない病気でした。

八年間私たち家族に笑顔と元気のパワーを沢山与えてくれた娘です。私は富山で育ち、結婚を機に大阪にきました。すぐに妊娠すると思っていたのになかなか妊娠しなかつたので、排卵誘発剤を使い、不妊治療をしましたが妊娠せず、精神的にとつても疲れ、不妊治療を諦めました。やめて三ヶ月経った頃、自然に妊娠しました。子どもが生まれるまでは、運転も仕事もやめました。妊娠六ヶ

月の時、「お腹のお子さんは女の子ですよ」と言われ、ピンクの小さな靴下を三足買ったたり、名前も、真弓の弓を取って弓華と名付けました。「弓ちゃん元気で生まれてきてね」と声をかけながら

どんどんお腹が大きくなっていきます。五日間の陣痛後、破水をして、やっと生まれました。生まれた時、泣きませんでした。保育器に入り、ミルクや糖水を飲ませて、やっとなりました。保育器も吐くので、富山市民病院のNICUに運ぶことになりました。心臓には四つ穴が開いており、腎臓にも低形成腎臓といつて、左右、大きさが三分の二しかありませんでした。その他に小さな奇形が沢山あると言われました。左手のグーは綺麗に揃いません。顎が小さく、首がなく舌が大きいので、呼吸がとつてもしづらいのです。原因は染色体異常の可能性と言われ、世界で三十七例の症例しかない「十四トリソミー」という病気

です。日本では必ず流産をしており、生まれてきたのは初め

で、大きくなつても歩くことも話すこともできないと言われました。ずっと泣いていると横にいた夫から「生まれてきてくれてよかつたよ」と言う夫の言葉で前を向いて歩けるようになりました。私は生まれてきてくれた命は命ある限り絶対大切にしようと思

いました。心臓に穴があいているので、泣くと心臓発作があります。泣かないようにお手洗いに入る時、ご飯の支度の時、横に連れてきて声をかけました。いつまでの命かわからないと思、毎日外出したことで、外が大好きになりました。外に行くときニコニコ笑い、自宅に帰ると泣いたら抱っこを繰り返して、頑張つて抱っこをして

も、四、五日に一回は心臓の発作を起こします。顔が真っ黒になつて失神し、三十分意識が戻りません。それでも泣いたらだっこを繰り返しながらも一歳・二歳の誕生日を迎えることができました。二歳になった頃、もう一人子どもを授かることができました。次第に発作が増えてきたので、九時間半



かけて成功率10%という心臓手術をしてもらいました。今後は、腎臓が悪くなると言われました。三歳の誕生日には和歌山のマリナーシティでお誕生日記念旅行を楽しみました。四歳の誕生日も和歌山に旅行に行き、祝うことができました。四歳の三月、腎臓が悪くなり緊急入院をしました。余命一ヶ月との事です。最後は家族一緒に良いと思い退院しました。しかし、二、三日経った時、にこって笑い、いつも通りの弓華に戻っていききました。四月になり家族四人でお花見に行きました。四週間、また四週間、弓華の命はどんどん更新し、五歳の誕生日も迎えることができました。その頃には「胃ろう」という手術をしました。チューブの交換を私が週に一度行い、手伝っていたのが幼稚園の章真です。六歳の誕生日も迎えることができました。六歳の冬、夫から熊本へ転勤というメールが届きました。それまで余命一ヶ月と言われて二年生きています。最後まで家族一緒に一番の思いが強



く、熊本に引っ越してきました。熊本の環境は過ごしやすく、天草に行き家族四人でイルカウォッチングも楽しみました。七歳の誕生日を迎え、宮崎の青島海岸で誕生日記念旅行をしました。八歳

の誕生日も迎えることができました。八歳の冬、顔がふくらんできました。三月になり、むくみで体重が増えました。四月には、熊本城にお花見に行きました。入院を勧められましたが、自宅にいました。最後には、多くの人が会いに来てくれ、私が抱くのを待っていたように、腕の中で息を止め天国に逝きました。通夜や葬儀が終わ

り、火葬場で大きな声で「弓ちゃん、ありがとう」と言いました。弓華と過ごした八年八ヶ月が本当に楽しかった。だからこそ、「行かないで」でなく、「ありがとう」とお礼が言えたんだと思います。弓華は章真に優しさをプレゼントして旅立ちました。私には青春時代をプレゼントしてくれました。私は弓華と過ごした日々が楽しかった。だからこうしてお話ができますが、皆さんはご自分のお

子さんが今元気で生きている。そのことにありがたみと幸せをかみしめていただきたいと思います。生まれてこなければよかった命なんてひとつもありません。生まれてくる命すべてに意味があります。そのことを今日皆さんが感じとっていただけたことを願います。本日の講演を終了したいと思います。ご縁に感謝いたします。ありがとうございました。

一 国策として、幼児教育振興・充実を図っていただきたい。
公立幼稚園・こども園未設置市町村が、全国で九百三十三(53・4%)あります。これから未設置市町村を解消し、幼児教育を希望するすべての幼児が完全に就園できるように、次の項目を強く要望します。

(1) 市区町村に対する公立幼稚園・こども園設置義務化のための法整備
(2) 三年保育の実施拡大
(3) 財政難を理由にした幼稚園の統廃合抑制・民営化の阻止
(4) 幼稚園・こども園における子育て支援及び預かり保育

(1) 専任園長、副園長・教頭、養護教諭、事務職員の配置
(2) 発達の特性に応じたきめ細やかな指導をするための正規教員数の確保
(3) 都道府県及び市区町村教育委員会における幼児教育専門の指導主事の配置
(4) 安全管理・危機管理の人員・施設・設備等の改善
(5) 幼稚園・こども園施設の耐震化推進

猪木会長の挨拶の後、永瀬大会運営委員長から大会の概要説明、国公立幼稚園会長の挨拶の後、平成二十七年会務・決算報告、本年度活動方針、事業計画・予算報告、平成二十八年度の要望、文部科学大臣表彰、全幼P会長表彰、会長感謝状贈呈について報告をし

要望事項

平成二十八年七月九日全幼P猪木会長、関全国国公立幼稚園・こども園園長会会長、同事務局長、全幼P副会長三名が文部科学省へ表敬訪問を行った。そして、国立幼稚園・こども園の実情をお話しさせていただいたり、諸問題につきましてお願いをしたりしました。

二 幼児教育環境の整備・拡充を図っていただきたい。
公立幼稚園・こども園は小・中・高等学校と教育環境において様々な格差があります。幼児教育充実のため、人的、物的、及び、制度的環境の整備拡充がなされるよう、次の項目について特段のご高配をお願いいたします。

(1) 幼稚園・こども園教員に対する教育職俸給表の適用
(2) ライフステージに応じた研修経費の確保
(3) 正規雇用の促進

平成二十八年度 表敬訪問報告

三 国公立幼稚園・こども園教員の職責にふさわしい処遇を図っていただきたい。
人間形成の基礎を培う重要な幼児期の教育にかかわる幼稚園・こども園教員の待遇改善と、資質向上を目指し、次の項目実現のための制度を確立してください。

平成二十八年度 理事会報告

第一回
期日 八月五日(金)
場所 熊本市国際交流会館

た。平成二十九年度年度滋賀大会岡崎運営委員長より開催地の取組の説明があった。また平成三十年徳島大会山崎運営委員長の挨拶があった。大会開催県は平成三十三年度、研究協議提案県は平成三十二年度まで決定済の報告があった。

役員選考については、各ブロックから選考委員を選出し、委員により役員が選出され、理事会で報告された。

第二回 期日 十一月十七日(木) 場所 国立オリンピック記念 青少年総合センター

猪木会長、関国公幼稚園長会長挨拶の後、熊本大会永瀬運営委員長からのお礼の挨拶があり、大会が成功裏に終わったことを確認した。続いて、平成二十九年度の活動方針・事業計画案・滋賀大会について・要望内容等を協議した。また、今後の大会開催県、研究協議提案県の確認をした。その後、文部科学省初等中等教育局幼児教育課 杏澤進指導官、生涯学習政策局社会教育課 下田力室長補佐の話を拝聴した。

第三回は平成二十九年二月二十三日(木)東京オリンピック記念青少年総合センターにおいて開催予定。



『子どもたちの為に』
親が楽しく取り組める
全員参加のPTA活動』
忍野村立忍野幼稚園
園長 渡辺 都久美

今年度は歴代PTA三役に比べ若いお母さん方が三役に付かれ本人たちが不安の中PTA活動が始まりました。そんな中、平成二十八年年度優良PTA文部科学大臣表彰を頂く事になり、若くても大丈夫出来るんだと自信に繋がったようです。そして、歴代の保護者の方々や、教職員、地域の皆様方の温かいご支援とご協力の賜物と心から感謝致しております。

『PTA活動の紹介』

本園では、役員十六名が、読み聞かせ係り・図書係り・お手伝い係り・環境整備係り・夏祭り係りの五つの係りに別れ活動しています。小さいお子様がいる家庭も参加しやすいよう工夫されており、保護者全員参加型のPTA活動が展開されています。

本園では、役員十六名が、読み聞かせ係り・図書係り・お手伝い係り・環境整備係り・夏祭り係りの五つの係りに別れ活動しています。小さいお子様がいる家庭も参加しやすいよう工夫されており、保護者全員参加型のPTA活動が展開されています。

『環境整備係り』

四月のPTA総会で役員さんが決定、まず最初の活動としてPTA役員・職員・園児で皆が気持ちよく幼稚園に通えるよう園内の草取りをしたり花植えを行います。土に触れたりしながら「この花なあに」「虫がいた」等、子どもたちの元気な声にお母さんたちの笑顔がほころび楽しく作業が進み花の成長を皆で楽しみにします。送迎時自発的に目立つ草を取ってくれる方もいます。自分たちが関わったので愛着があるようです。役員さんが五つの係りの担当に分かれ、係りのリーダーになり幼稚園と相談しながら一年間の予定を作り五月頃からそれぞれの活動が始まります。

『PTA主催 夏祭り』

夏休みの最後に友達や先生と楽しいひと時を過ごし、新学期からの登園をスムーズにする事。また、保護者間の親睦を図ることをねらいとして夏祭りを行っています。「ポップコーン」「綿菓子」「かき氷」「ヨーヨーつり」「遊びの広場」の五つのコーナーを計画し入場券・材料・各看板等の準備を行います。夏祭り当日は、夫婦で各コーナーの担当になり運営しています。お父さんたちの生き生きとした表情や、ご夫婦でのやりとりも印象的です。参加は幼稚園園児の家族及び親戚、園児のお友達等です。浴衣で参加する園児が多く、いつもと違う幼稚園の華やかさになります。



『お手伝い係り』

運動会の入退場門を作る為に、門のデザイン、必要な作業を検討し役員さん方と一緒に組立、運動会当日に設置。ステキな門に園児も大喜び、運動会が盛り上がりました。



『読み聞かせ・図書係り』

事前に絵本選定の打ち合わせを行い年六回読み聞かせを行っています。また、図書係りは学期に一回、本の修繕を行っていますが、修理する本が多いと回数を増やしています。



『終わりに』

PTA活動に参加する事で、園での子ども姿が分かり、また、保護者間の交流が深まり、幼稚園理解にも繋がっています。今後、積極的な意見交換、改善策の

世界遺産に登録された富士山の裾野に建つ本園は、村の中心部にあるが、畑や小川、東海道自然歩道などが近くにあるのでお散歩に出かけ四季折々の自然に触れる事が出来ます。保育所や小学校、近隣の学習センターなどとの交流も深く地域の皆さんに支えられています。園児数は百二十七名で、バス通園と送迎の家庭が半々です。「元気にあいさつをしましょう」「親

拾い上げなど保護者の意見が反映されやすい環境作りに尽力して行きたいです。

『笑顔が広がるPTA活動』

宝塚市立安倉幼稚園
園長 境 十三代

この度、平成二十八年年度優秀PTA文部大臣表彰をいただきありがとうございます。歴代の保護者（PTA）の皆様や教職員、そして地域の皆様方の温かいご支援の賜物と心から感謝しております。本園は市内一広い園庭に大きなケヤキの木がそびえ立っていて、「ケヤキの木のようなたくましい子ども」を教育目標に「やる気・根気・本気 あきらめない」を指す子ども像として取り組んでいます。

創設時、地域の方々のご厚意で植えられた実のなる木は、四季折々に実りの時期を迎えます。梅雨にはウメやビワ・スモモ、秋にはカキ・クリ、冬にはミカンなど、旬の味を楽しむことができます。都会の中にある幼稚園ですが、人



のぬくもりや自然とのかかわりがいっぱい幼稚園です。

園児数は四歳児、五歳児合わせて百六名で、人懐っこく明るく元気いっぱいの子どもたちです。毎日、広い園庭で、かけっこや鬼ごっこなどの運動遊びを楽しんでいます。さらに、ぶら下がる・よ

じ登るなど、日々の生活や遊びの中では経験しにくい動作を遊びの中に取り入れた「あくらっこタイム」を設定しています。この「あくらっこタイム」は、継続して取り組むことで本園の特色となっています。体を動かして遊ぶのが大好きな子どもたちを、地域の皆さんは「安倉の誇り」と思ってくださっています。

PTAの皆様方も幼稚園の教育に対する理解があり、様々な園行事やPTA活動にも積極的に参加していただいています。十六名のPTA役員は、会長、副会長、書記、会計、研修部、学級部、コミュニティ部等に分かれ、それぞれの担当の役割を果たしながら、役員全員の協力体制で計画的に様々な行事を実施していただいています。PTA活動の主な内容は、講師を招いての研修会が年間三〜四回、園舎の清掃や園庭の草引き等が年間三〜四回、その他幼稚園行事に関する様々な活動のお手伝い等です。

「大人も遊びの楽しさを共有して笑顔に」

年に一度、七月に実施されるPTA主催のなつまつりでは、PTA役員を中心に保護者全員からボランティアを募り、たくさん遊びのブースを考えて進めていきます。

本年度は秋のオープンスクールにおける遊びのテーマが「忍者」と知ると、なつまつりのテーマも「忍者」と決め、手裏剣投げや巻物探し、宝探しなど八種類の忍者の修行の遊びが展開され、子どもたちは大喜びで参加していました。PTAの皆様方の企画力や協力体制の凄さに圧倒されることもありました。

「忍者に手裏剣があたったよ」「忍者みたいに走るよ！見ていてね！」「上手！速くて見えなかつたわ」など、楽しい会話が弾みました。それぞれの保護者が自分の力を発揮できるところで主体的に参加してくださり、親子だけでなく、人とかかわりが広がっていききました。



「豊かな実りを生かして楽しく食育」
春のビワ採りに始まり、恒例の梅ジュースを作り、夏のさわやか

な味を毎年楽しんでいきます。また、自分たちで育てたジャガイモやタマネギを使ったカレーづくりでは子ども



たちが初めて包丁を使うことに挑戦します。安全面の確保のために子どもたちの横に寄り添っていたきながら、丁寧に教えてくださいました。

サツマイモ掘りや焼き芋パーティーでは、芋を洗う、濡れた新聞紙に芋を巻く、アルミホイルで巻くなどの過程の見守りやお手伝い、さらには焼けたお芋を食べるための準備など楽しそうに手伝っていたきました。お芋が焼ける間には、園で収穫した渋柿を干し柿にしてくださいませ。干し柿づくりでは、子どもたちは渋柿を少しだけ食し、「しぶい」という感覚を覚えました。

「広げよう、子育ての輪」

本園は未就園児親子の遊びの広場として、ここに広場（三歳児対象）とリスちゃんクラブ（一、二歳児対象）を月二回〜三回実施してい



ます。主に指導しているのは幼稚園の職員ですが、ボランティアの保護者が保育の補助や受付のサポートをしてくださいます。三十組を超える親子の参加があり、とても賑やかですが、とびきりの笑顔で明るい雰囲気をつくってく

「お話の世界に夢を広げて」
毎月の誕生会後、図書ボランティアの皆さんが絵本の読み聞かせをしてくださいます。担任の先生だけでなく、お友だちのお母さんに絵本を読んでもらうことが大きな楽しみとなり、週一回の絵本の貸し出しは、大好きな絵本を借りることができる嬉しい日になっています。

「地域文化を通して心をひとつに」

本園の地域には江戸時代から伝わる「安倉音頭」があります。稲の収穫に感謝し、豊作を祈るという意味を込め、地域で代々大切にされてきた地域文化です。「安倉音頭保存会」の方々が踊りや太鼓の叩き方を教えてくださり、子どもたちも地域の一員として親みま

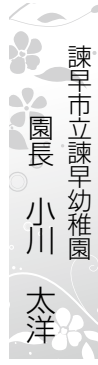
習得した「あくらっこ太鼓」は、市内の「邦楽のつどい」で披露します。小中の有志団体の中で胸を

張って発表する子どもたちの姿に「安倉地域で子育てしてよかった」と毎年、保護者が喜んでくださり、子育ての楽しさが共有できる場と なっています。

おわりに

P T A 活動を通して保護者は子どもたちの成長を垣間見ることができ、保護者同士のかかわりも深めてくださっています。今後も笑顔がいつばいの楽しいP T A 活動が継続できるように、支援していきたいと思っています。

『子どもたちのために』をモットーに、楽しくやりがいのあるP T A 活動をめざして』



この度、平成二十八年度優良P T A 文部科学大臣表彰をいただきました。「地域に住む未就園児に対する子育て支援」「会員相互の学習活動」「地域との交流活動」等が評価されたものです。これらひとえに現会員の尽力とともに歴代のP T A 役員・会員のご努力、地域の皆様のご協力の賜物と感謝しております。

本園は諫早市の中心部に位置し、現在五学級九十三人が在籍しています。広大な敷地内に諫早市立中央保育所と諫早市子育て支援

センターが併設され、三つの機能を持ち合わせる複合的教育施設と なっています。

本園P T A は開園以来六十二年の歴史があり、最盛期は二百五十人以上いた会員数も今では百人を切っていますが、組織構成を工夫

し以前と変わらぬ活動をしてい ます。執行部と四専門部、各学級部 のほか、無理のない範囲で可能な人が率先して行うボランティア活 動(子育て支援、ミニバレーポー ル、おやじの会、読み語り)の軌 道に乗った運営が本園P T A の特 色といえます。その活動の一端 を、今回受賞の際評価された三点 において紹介します。

「地域に住む未就園児に対する子 育て支援」

ボランティア組織である「てと てクラブ」(平成十九年結成)が 毎月第二火曜日を基本に、年十回 「子育て支援事業」を開催してい ます。以前は幼稚園主催事業の補 助的な位置づけでしたが、現在は 会員が増えたこともあり活動のほ ぼ九割をクラブ員の方が支えてい ます。

毎回四十人ほど地域に住む未就 園児が本園と交流を行ったり、 会員が歌や踊り等を披露し、子ど もたちの幼稚園に対する興味や関 心を引き出すなど楽しい雰囲気 を かもしだしています。

「会員相互の学習活動」

教養部が「子育て」に関する テーマで講演会活動を年二回行っ ています。近年行った主な講演会 は次のとおりで、多くの会員から 「とても勉強になる」という声を いただいています。

- ・メディア研修会：近年情報化が 激しく、幼少期においてもメデイ ア教育は待ったなしの状況である ことから、メディア指導員に講演 を依頼し、保護者のスマホの使い 方等をお話しいただきました。
- ・食育講演会：食育に関する保護 者の知識も大切であることから、 校区内の栄養教諭に講演を依頼 し、心と栄養のバランス等のお話 をしていただきました。

・子育て講演会：著名人のお話を 伺うことで身近な子育てに生かし ていきたいという声上がり、内 村航平選手(本市出身)の母、内 村周子さんを招へいし多方面にわ たるお話をしていただきました。



いさはやのんのご祭り

「地域との交流活動」

子どもたちに郷土の踊りやお祭 りの雰囲気味わわせたいという 思いから、諫早市をあげてのお祭 りである「いさはやのんのご祭り」と地域のお祭りである「西郷町納 涼祭」の二つはP T A 行事として 参加しています。年長・年中児の 希望者を募っての参加ですが、参 加者は毎年八十%を超えており、 保護者の協力が地域行事に一層花 を添える形となっています。

また、P T A 行事としての位置 づけではありませんが、本園には 地域の方々との交流がたくさんあ ります。「隣接する保育園児・近 隣の小・中・高校生との触れ合い 活動」「中・高校生職場体験学習 受け入れ」「小・中学校初任者教 員受け入れ」「老人会との交流会」 というように、交流も多岐にわ たっており、その教育効果も高い ものがあると考えます。

「終わりに」

本園は登降園時は保護者の送迎 を原則としており、また毎週一回 ミニバレーボール練習日を設けて いることもあり、保護者同士が毎 日顔を合せ、とても保護者間の仲 が良い関係にあります。そのた め、ボランティア活動を含め、保 護者の出番は多いと言えますが、 皆さん楽しみながら活動を行って います。園とのつながりも深く、 執行部を中心に会員からの声に対 して何事も「やってみよう」とい う姿勢で臨んでいます。

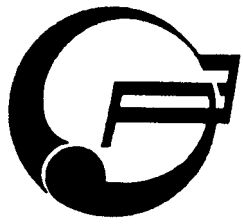
今回の受賞を機に、会員一同 「子どもたちのために」をモットー に、今後も保護者と園が連携し、 P T A 活動をより一層充実させて まいりたいと考えております。



「てとてクラブ」による読み聞かせ



執行部による熊本地震義援金活動



全国国公立幼稚園・こども園
PTA連絡協議会章

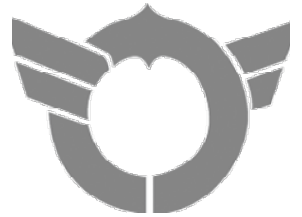
第55回全国国公立幼稚園・こども園PTA全国大会

滋賀大会ご案内

大会主題

母なるびわ湖で、子どもたちの命のこと、
子育てのこと話してみませんか！

期日・場所 平成29年8月5日(土) 北ビワコホテル
6日(日) ひこね市文化プラザ



滋賀県 県章

第五十五回全国国公立幼稚園・こども園 PTA全国大会滋賀大会

滋賀大会運営委員長 岡崎 正彦

第五十五回全国国公立幼稚園・こども園全国大会滋賀大会運営委員長の岡崎正彦と申します。

ご案内に先立ち平成二十八年四月の熊本地震で被災された皆様にご心よりお見舞い申し上げます。会員の皆様におかれましては、日々のPTA活動にご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

平成二十八年二月の匿名ブログに保育園に入園できなかった事を書き込みがされた事を発端に、政府は待機児童解消のための緊急施策や保育士に対する様々な支援が動き始め、また、一億総活躍社会実現を安倍政権は提唱し、益々就学前の幼児教育と保護者を取り巻く環境は目まぐるしい変化の波にさらされています。人口減少が加速する中で、未来の社会を担う子どもたちの健全な成長と充実した人格形成のための教育が問われる今、私たちのPTA活動が重要になってきていると感じています。

昨年は、震災が発生し大会開催が危ぶまれた中で、永瀬運営委員長をはじめとする熊本大会の実行委員の皆様の努力で、第五十四回

熊本大会が開催され、その実行力とチームワークの素晴らしさに感銘を受けました。

「負けんばい熊本！頑張るけん熊本！」の思いで、苦難を乗り越え準備された大会は、全国からの参加者に、笑いと笑顔をプレゼントし、地震の怖さも忘れさせる心温まる大会となりました。滋賀から参加した二十名の滋賀大会実行委員もその思いを受け取り、素晴らしい大会運営を目指し気持ちを一つにする事が出来ました。

さて、平成二十九年八月五日(土)・六日(日)に開催となりました滋賀大会では、主題を「母なるびわ湖で子どもたちの命のこと、子育てのこと話してみませんか！」としました。社会が子育てをサポートしようとする様々な取組が進む中で、肝心の親が子どもを粗末に扱う痛ましい事件が増えています。社会環境の狭間で相談する事も出来ず、一人思い悩み続けている親、子どもが泣き止まないからと手を上げてしまおう親など、昔なら周囲にいる誰かが「子どもは泣くもので」

とか「こうしたら泣き止むんや」と子どもを抱きかかえあやしてくる環境が当たり前のようになっている環境が当たり前のようになっている事と違います。いずれも「どうしたらいいんやろ」と子育てについて話す所からスタートしていたからと思います。そんな原点に立ち戻り同じ仲間話し合えば、未来を見据えて語り合えれば、きっと親力も向上し、安心して子育てができる社会が来ると思っています。

さあ、皆さんとともに滋賀で始めてみませんか。

五日(土)は、昨年十二月に全国三十三の「山・鉾・屋台行事」とともにユネスコ無形文化遺産に登録された「長浜曳山祭」が行われる長浜市で、大会一日目を行います。そして、六日(日)は、世界遺産登録を目指す国宝彦根城のある彦根市で開催します。ゆるキャラの火付け役としてご存知の「ひこにゃん」とともに滋賀県を挙げて近江の国の母なるびわ湖(Mother Lake)を、全国の皆様をお待ちしています。

役員

役員

平成二十八年年度 顧問・役員のご紹介

顧問

- 高橋 勝明 (元全幼P会長)
- 万里小路 伸一郎 (前全生幼P会長)
- 上枝 秀則 (元全幼P副会長)
- 今井 昇 (元全幼P副会長)
- 太田 禎彦 (前全幼P副会長)
- 板東 優子 (元全幼P事務局長)
- 楠元 祐子 (元全幼P事務局長)
- 中村 初美 (元全幼P事務局長)
- 新司 英子 (前全幼P事務局長)
- 磯部 頼子 (元全園公立幼稚園長会長)
- 酒井 幸子 (元全園公立幼稚園長会長)
- 齊藤美代子 (元全園公立幼稚園長会長)
- 岡上 直子 (元全園公立幼稚園長会長)
- 池田多津美 (元全園公立幼稚園長会長)
- 荒木 尚子 (元全園公立幼稚園長会長)
- 岩城眞佐子 (前園公立幼稚園長会長)
- 関 美津子 (全園公立幼稚園長会長)
- 大木 英雄 (元全園公立幼稚園長会長)
- 深町 芳弘 (元全園公立幼稚園長会長)
- 楚阪 博 (前全園公立幼稚園長会長)
- 佐藤 忍 (全園公立幼稚園長会長)

役員

- 会長 猪木 直樹 (岡山)
- 副会長 大関 敏寛 (秋田)
- 中川 博喜 (東京)
- 吉田 尚 (愛知)
- 岡崎 正彦 (滋賀)
- 野々村 卓也 (島根)
- 山崎 篤史 (徳島)
- 清松 督雄 (大分)
- 新山 裕之 (園長会)
- 伊藤 友美 (愛知)
- 中尾 史子 (熊本)
- 山岸 芳子 (滋賀)

事務局

- 事務局長 角屋 純子
- 書記 児玉真寿美
- 会計 矢敷 憲子